

## アルコール依存症に合併するうつ病と自殺リスク

### → 成 因 ・ 危 険 因 子

テーマ

松下 幸生 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター  
副院長

#### 1 アルコール依存症治療の現状

—アルコール健康障害対策基本法が施行され、アルコール依存症の問題がより注目されています。臨床での動向を教えてください。

2013年に実施された厚生労働省研究班の全国調査では、ICD-10診断基準によるアルコール依存症の経験者数は109万人と推計されています。2008年の全国調査では推計60万人でしたので、数値としては大幅に増加したことになります。あくまで推計であり、実際に5年で1.5倍以上増加したとは言い切れませんが、問題はそのなかで通院しているのは約4万人にすぎないという点です。そこで現在、依存症の未受診者を専門的治療につなげる対策が大きな課題として浮上しています。

また、2013年12月に「アルコール健康障害対策基本法」が施行され、メディアなどでアルコール問題が取り上げられる機会が増え、社会的関心は年々まわりつつあります。医療機関では依存症の病棟やデイケアを新設する動きがみられ、当院で依存症の治療を受ける患者さんはやや減少傾向にあります。それはかつて依存症治療の専門施設に一極集中しがちであった患者さんが、他の施設に分散した結果ではないかと推測されます。

#### 2 アルコール依存症と合併するうつ病

—アルコール依存症と他の精神疾患の併存について、これまでどのような知見が得られていますか。

アルコール依存症に精神疾患が合併することはよく知られており、なかでもうつ病の頻度は高いといえます。実態については、国内では全国規模の調査がなされていないため海外の報告が中心となりますが、一般人口を対象に依存症と精神疾患との合併率について調べた米国のNational Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions (NESARC)研究が有名です。同研究によると、調査対象となった約4万3千人の一般住民のうち、依存症者でうつ病を合併するのは約14%で、依存症と診断されなかった人に比べうつ病を発症する率がオッズ比で2.3倍高かったことが示されています<sup>1)</sup>。

アルコール依存症の経過中にうつ病を発症した場合、大量飲酒の影響によるうつ状態の除外が難しいところですが、過去1年間に飲酒歴のない人を対象とした調査においても、依存症の既往のある人は、ない人と比べてうつ病を発症する危険性が4倍高いことが報告されています<sup>2)</sup>。

—その逆の、うつ病におけるアルコール依存症の合併も多いのでしょうか。

海外のシステムティックレビューでは、うつ病にアル